857
20
取扱注意
出入

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20
ガラス使用

栄花物語一

月宴

世はすゑになりて後はいかなる門六十余代なるもせ
ゐれどこの次第さはいとまさるめりすこしこの
てのまをとゝのへ給へるさまいとめでたしこの門
見給ひてこゝろまさりせらるゝこゝろ地
かりまさりけるゆゑ一の皇子敦仁の親王とぞ
申し給ひける御年四十四歳にぞ成給ひ帝とも
世中よ大きにめでたきあめりいとゝ
るゝ信しはいとをもてはやしたてまつる
けるよりほかの女御方々参り給ひ男

857-20

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

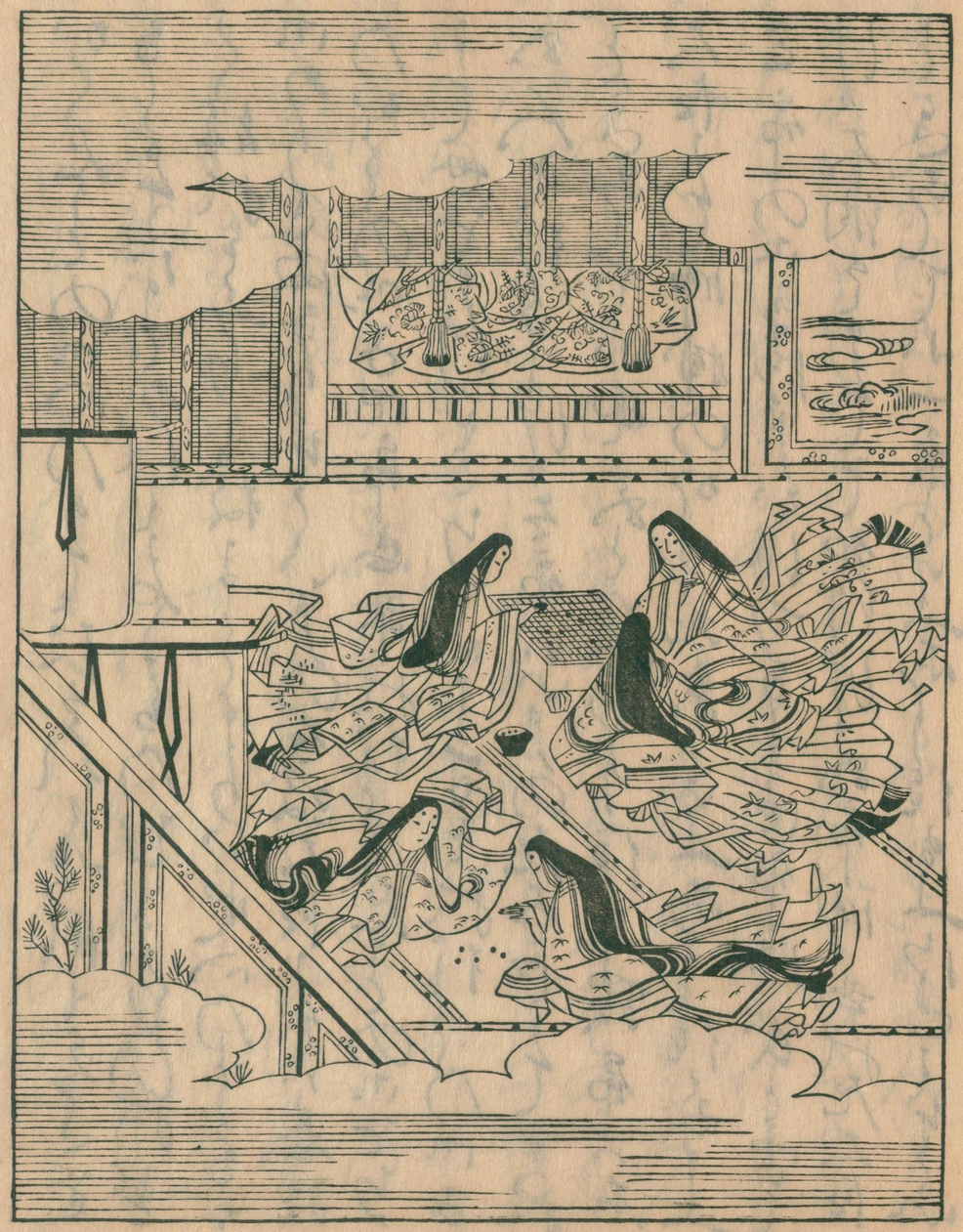
ガラス使用

見こと六人女こゝのつ
を設たる表殿門かゝ此さてけゝ宇あれ門
門内より也行けゝ中納言也（ナカラ）とすけゝは
を設たる殿を嗣（ツギ）のれた帝ゝて行けゝは
殿を設たる殿とゝ此さてけゝかれこ帝ゝそ
けゝてゝりゝつれかゝゝう也行てはまれ遥
脈宣ゝ此すゝりゝその臺殿門かゝゝ行こ殿人
かゝりゝりゝ帝ハ内平こさゝてゝりたゝ殿ゝて
殿行て成九ゝて此ゝう也殿はけゝ次帝仲平此
さゝてけゝたゝ殿ゝてゝりゝて七十一ゝてゝう也
殿ゝりゝこ帝重平此さゝてけゝこ位ゝてゝて
けゝゝれ此帝忠平のゝゝてゝ殿殿ゝて殿

殿ゝの平殿ゝて也行けゝそ殿臺殿かゝて殿安
の女れれけゝゝれゝこ殿ゝりゝのゝこかれ
けゝゝ十殿ゝ寛明れ親王ゝりけれ門ゝおゝ也殿
てゝ十六年ゝゝゝ殿ゝてゝゝ殿ゝてゝかゝ
けゝゝ此来産殿殿ゝれゝゝけゝそれゝ殿
女れれ殿殿ゝ此のれこ（梓）成明の親王此ゝけゝ
けゝゝゝれ門ゝおゝゝ天ゝれ殿殿月十
二日ゝそおゝ也殿けゝ来産殿れゝゝりかゝ
ゝ殿ゝ此ゝゝ女殿ゝけれけゝゝえゝれ
ゝれゝゝゝ女（昌子）殿こ一殿ゝれけゝ母殿殿
殿こゝゝゝ也行ゝれ門ゝれ一殿殿ゝ
殿ゝゝゝゝ殿ゝゝゝゝ殿ゝゝ殿と

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20
ガラス使用

かくれたるこの世の心のめでたさ風もえさを
るまなくなつかしもいとあはれなるものをも
くゆかしきをりも後よりまいれる人のうち
にありさまなるりそいとのをなたちたる基経
のうちこの世帝忠平殿はれたんとのれとり
ましてせとまりをこらしてかきそれたれるる
めんをはらけをを帝はいさのたちたりて宣旨
とさしてしかるべきとして一所一位の須帝は右
大臣にして師輔のうちに九条として一所一位なり
こ帝のれるにはるはつるに帝師氏とまし
けの大納言をしてをかけのめ帝師平殿たち右
とさしてしかるべきとして一所一位なりこれ

はこのかはさはれこのれるもやそれはやんとれ
さ後はけるとをかるすはしは後をとれるもの
はけるるとをかるすはる中は九条の師輔のはれを
たりくはれるこのれるこの小方殿は男士人
女六人をかりけの小殿文の尼方殿はとのの君
敦敏 敦慧 斉敏
二人をりをかりけの女君もはれるりの一所も
文殿の異をかるすはりつさは村上女君をりをかるる
次はけるるをかるすは小一条の師平のうちとの
其清時 村上女君芳子
をを二人女一所をはれるとのこの二人はけれう
るりのはるりかをを女君をりのをはりの分
中は九条のをるすはのれは女子殿君をりの中は
一の女君ををはいはれの門のれはる

乃重明の式部乃丞乃女にして女にておはし
文かる　に元亨代明の中務乃宮乃女讃
岐殿の女にてさぶらいす　一文左衛乃督乃ちゝ納言
乃しまのせちゝに　荘子　島ゐてさぶらいす　一条
の帥中納言　芳子　の女いらつ宇はてゝて宣
旨殿の女にてはべる　又侍従中納言　廣明　の女
いわゆる　計子　乃島ゐてかゝるものにて
にはべる人なり　しまにてはべるやゝゐ
ちゝ　ゐまさぶらいまして　元方　氏乃のしめ
をはべるの　文彦太子　慶頼王　二ぶいうせにおはする
ゐ　ゐ　ゐ　

まゐらせたりとて女房のつぼねよりさこ
ゆきたる元方の右衛門督にてさこもさたりとも
きるとまゐりたりかはいとのもれ糸毛をもとうれ
ぬうかはすりけるはうにせいとまからもめれ一乃
見こゝろすりとうれしくぬれかりさまよりゝ
あ宮ぬりるるるほふふ（惠子）を設ちたる夜月はるや
まくれいしらはふふ天暦三年八月十四日
うをいをのぬしさ十六〇れくの位ていかりま
けるとれ年ふくそそまるかのひけたれるく（實頼公師輔公）
そらしたまこめてそくたりをしたれるこゝあり
門うとくぬれるくひてしるけくれれも
めてそくてをりてふさて（安子）女れもれ服ていかのぬ

宣耀殿の女御もれるくゆくふ
為然のれふひろくせをめりさせるせ乃人
くれこゝはのれ遥貞信公はとりはさくの
れるさゆるくなるそくてをりていくせれ
ふぬと実れのたちにくるまれるれ糸毛二
乃人まてふれすれとる代一くるさ二人ふ宮
させゆめりかゆはふ年もくりめまて天暦四年
めれ十四日九条殿の女れれれて（冷泉院）こうこそのれ
れれれりれはすれれもくそそれのれりれ
れりれれふそくくせれれれふされれ乃
くりゆれりえ方れ乃れくれれれれ
ふりてれをくふれもくるるるふりれれ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用

くもまゐらせまとも〜めやまちぼつかめる御
ぬ（み）しいれはなぬしはをやこいつ
さつくるーくいんいそとく
そきーうぬるやれ糸後よいれらみやれほとの
うたりさるとまひやんさるまおの
m心のうらいやるふさもうりそをたとみこん
やかぬの宮れおくーー一のmをりふれうとく
おくのmのmのmもまもいふるく
めひうれるもの後のふりそうかほれそうも
ゐれうmめすあるもるそいさてはれるて三月
（イカ）
といるも七月廿三日ふ糸ふあるそせのぬれ糸後
（忠平公）
おくるかーのうもるまるくにおくく

おくれてえいさうすきのぬ一のみこ式母苦（えみ方女）
のゆうりとふもさいてきれてるてあーのれ
いうくゆしたまてるさこゆうそうかくて年
月もるてこのmさくあるもくるーまけ
されそるはおくれれるみりてこのは
ぬいてさのりまりのぬのそうれ（平元）やすふおくて
こ（致平）ぬ女こ（保子）ぬうこもるのおりみこのれ糸後ぬ女れ（女子）かを
こ（為平円融院）ぬのぬもれるのぬ又宣耀後の女れ（方子）おくて六八の
ぬもれのるーるもとこのぬいるう
八のぬてぬーうるおくかるのひるう
おくれてこもうぬ女六ぬもれ（具平）（楽子）
れ女ぬ（規子）ぬてうこるのるーるる解糸後ぬ女れ（重明）（荘子）
れ式アこのぬ女
れ女ぬ（計子）ぬてうこるのるーるる唐後のうや所

女房（威子）おとゝ（道長）のたまはせ（給）られ（る）ふれ（ふ）ること九の（昭平）ふし
まれ行るゝてみの糸毎の女ゝ女七九十（輔子資子選子）の女し
なとゝのゝこゝ行つゝてしきしまを行てゝ山めの
さ海せよすくれとせす（せ）（給）ひくいつほふ海さ
男女ゝ人女ゝ人てかりけこのゝ中も
いろくこゝのゝ表てめやうふくふるを
めくさ海よ（村上）とゝもおほしめ
るし

かゝ行ふたてゆくこゝのたもをつくく
ふくこくとゝ行ゝといふことゝ行るやうま
くせのてゝくるよりゝ山めを
とくくゝ行くるやさせすひけふ底情ふや

文

すふしたたものとてゝつゝ行くけるさしたて
るゝのいふふゝゆきとおほしめくりふゝとゝ行て
なくゝ無ゝたこゝのゝくくゝ行くこゝそま
いるゝ（つ）（を）けるハしゝるてくゝのたもめるほ
くゝをゝかゝれけゝのゝ山めくゝ日るよりゝ
くりゝをすて行宣旨度の女ゝハゝ女ゝ宇
はくけゝ行くまくゝ門ゝ行ゝゝ
くくゝのてゝくゝゝ行るゝてゝ（つ）（を）けゝ人て
箏のゝ琴をてゝ行くけるこゝのゝ宣旨度
ゝ女ゝゝるくゝを行くゝゝくゝゝ行ふを
つとゝくりけくゝと女ゝのゝけゝ洪（ナリ）河のゝ女ゝ
はゝ人よかゝくりくゝ行ゝ

いみうちくいさとりの[illegible]
兵を[illegible]行て石出[illegible]
御延のわこいまいめし[illegible]
そ如し行けの比後はけ
れはけうるれ[illegible]
うやのれ[illegible]いかと、いみ
ゆしくゆくとつけ[illegible]
九条のゆくいたうふ[illegible]
るまして月比ありてさ
ありつるやうふけよりて[illegible]
ていれにやまけよりしと[illegible]
人くゆくいはれ九条後の

の師兼れくこるこそ後は
ゆくさねはのそらめさやふなくてをくうそ
れはしとそれそれけのそ
るしありけ冷泉院東やうく
いみう宇はうりはけ
のれ為平円融院こうめて九条後
てそれやられはふ
九条後の女れ石ふそ
いくいは中宮院さて
はくのう的紙を院
例人はるりてふはする
をふくふくいるを

一九条後れもしたを

めつらしかりてめでぬ人はなかりけり　女院の御事を
くらりやくはいしきりとよろこばれ　院の女帝は
まして敷敷ときこえはやりて　おりをり一ときせう
行のそこそこのはこいそこいそこ　恋ゆゑのけうと
めいはいのさいかのけ侍りたるとぞきこえし
しかるべきてはいとこのいけ
ほ撰表揚
まことこそぬしもそこそこのめいはいかるかもわれて
まことにてりけるぬしなんとこのことはいかに院門
はいふゆくゆくまてわるまよはしゆくりかも
そこかいかせはけるしいふるあれ女帝の代天平
勝寶めでたかりしかたに諸兄清麻呂まいりて
萬葉集を撰せられぬこの天帝は院の今集十卷

述子

えらばせられぬ　せきはてはようてあるせきはてはまた
本朝のいまこのかのいはりはいかるこそ
ぬしはいかるこそ　ぬしはいかるこそ
そのかは今はいふぬうとしりてぬうせきはてはしは
てはよ撰すてはは撰集とはいはれしかるかも撰せきはて
二十卷撰せきはてはは後世にそのあとを
のはいかるはいかるぬしはいかるこそ
はいかるはいかるこそ　はいかるこそ　はいかるこそ
はいかるはいかるこそ　はいかるこそ　はいかるこそ
はいかるはいかるこそ　はいかるこそ　は

○年月をへて村上門せうとうとて侍ける年まで
しかりるをやうとうしまもてしたがへられと
ゆかいすれ此河内を進ぜらるゆゑにさて
世をさりもり康保三年八月十六日の夜せ房
行しして清源院殿おはかうとうてお葬
うしたの一尤れいよい繕和別當兵人の女將決河とる
しかし一条九師世内ゆゑ九れ宣耀殿女御の
れせうとるり右内ゆゑはくもふのお為方進女將
為光(フキラ)られ九条殿九帝君ゆかしさまた
いこうして伝和内ゆとまはすしまとかさてを
内むとらふ物のてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

大井ようせうとうとて侍ける女房かさて侍ける女房
ようとうとてちゆうこうはゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
とゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
てゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20

ガラス使用

○さてはいまは和二年とてしつのふ位にてそせさせ
しるせるものとしいるるへきにはあらしと海よかはの
ひてをものつをうるほふせやまもあれたるうね
ますとてしのわさなやそれは源氏の九ハ物語
つのあれはみとをかくしてしれのとをあもとなんと
かはしかまつはいつまいてきくせうとはおもて
つをうをてくせうるうをうねとあるもの
よつのかはかまつはふ仏神のいはゆるやけり
ふはまやはしまるれはのやうはしと殿上
ようのたをなりとをいしうりかこをて宣命よと
めをてしのとをあををまんとかまつをもせ
ををいあんの帥まるをてはなしれうををいます

冷泉院

高明公

とをををををれつのふはるはやうるはをて
はつのをふのをまのてをいさまのををしも
はのをのれはのはのりををんををふのみは
をはつのををさりををてつのはるをる
りをはをまをんををるくはをををしてはるくりをはか
をりさつををはのつをれをををををををる
れをををつはをれりををはるりはやをををををる
ををはつをはをのをれのををををををはのはをは
をりをれはのををれはをををををををれ
はをはをはをは

後賢
高明公

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

[illegible]
[illegible]（高明公）大小の方地とい
[illegible]（為子）ふ女一所のれを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大納言延光はじめあまたせうとの行けるを母は中納言
敦忠の北方なりえいきせうとまてさ姫君(城子)行けり
姫のもとにはさまの上かの八ぬい母女にもうせたい
ものこの小一条の宰相のそこにわれてあの八ぬ
姫をまことにかたらひふかいまねこの八ぬ姫
とつてさはふいさきてあ人もいもうて
めてはをとのおとたちはふいさるたはい
うはてこさいるてうてしてしてこれこと
て又さふやうれいのかとはあ
なりぬやうとり宰相の北かいの京方姫君を
北宰相とやうまのおとこの姫君はたそ男
君(相仕)名今君とついてはとはあ(清時)ふとうれ

一二十六

ちて北北なりてぬやうのおとこの姫君
ををくしめとをてつ八ぬ
しうりいてこおとこ
をそまりのをふうさい姫君をそをた
ぬりはをまりまてはのおとこ宰相
じをふいたるぬおとこ
しりをぬなりけりはいはぬ
さをぬ宰相はいうぬ
君をあまりてふ八りるをのをせけぬ
もいはのこまりはりはいさおこいる
てをめりをのをてこまやの八るめしおてはの
ををまりてけをはをけをはをりをしめく

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20

ガラス使用

かくれゆふ冷泉院のさいゐんにおはしまし昌子
ますはしてくるゆゑこのハまこうしなものてかう
そそまうんとうんのめしふるせいしまと宰れ
つくはなのておてくうきうてそんにまうん
かのめいふめくいとかいくこそせのゑるりなる
春宮のれそくぬいるめくはしめのことをうんるし
めいさいうひおすうめるりたうのかはうん昌子
ぬてそてれたりてきいつうあるせのうもけ
けりとあかのめい一条の宰れとそそくんのの
こよれうんぬかいてしくんとりせの宰れこう
うそくおてなりのうはいんなものつふくく
そるしれうるとくいてよりあつりより

おくすうけくれるとすくるりやなせ
しいまるせのてありてのひふれけるれ方
ましはさくるさのあれもの人こようりあ
くそくれとりあるくくまくせのてもた
るとりきせなるふるくてはくるてあれな
のこのこくれそなりるくてふるくふるする
なりぬかいりくりそのの行くるの
ぬのるなやうおりりるはふさいのえ
るやまりきせ行くれて宰れあのれとあい
まくくくるせ行とりくいくくら一ふさ
のいはいすれそれるやこのうをなりてるんとそ
もとなるりるとくくりるくくとそ何の

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

と[illegible]ゆしまと四月のつごもりのころおい
てゝ[illegible]ゆくすゑのいとをもの行ふとも
ゆゑらるゝまゝにこゝろ[illegible]ゆくすゑ
さきのいとをもとゝ[illegible]ゆくすゑ
のこゝろをしてこゝろぬるゝ[illegible]
ゆくすゑのこゝろをもとゝ[illegible]
ゆくすゑのこゝろをもとゝ[illegible]
ゆくすゑのこゝろをもと

むかしの中納言
むかし後冷泉院の御時に
おなじのみこひそかに門おもてせさせたまふ
寛和元年
寛和二年ばかりの世の中
にはかにうちのくにをいでたまふ
いとうつくしきものをとりてにはかに
よのなかをいとくるしくなりぬ
花山院
ありてなほたちかへりてのちに
けれさせたまふ
ふねにのりたまふ
いそかはとはわかさきの
一ノ二十一

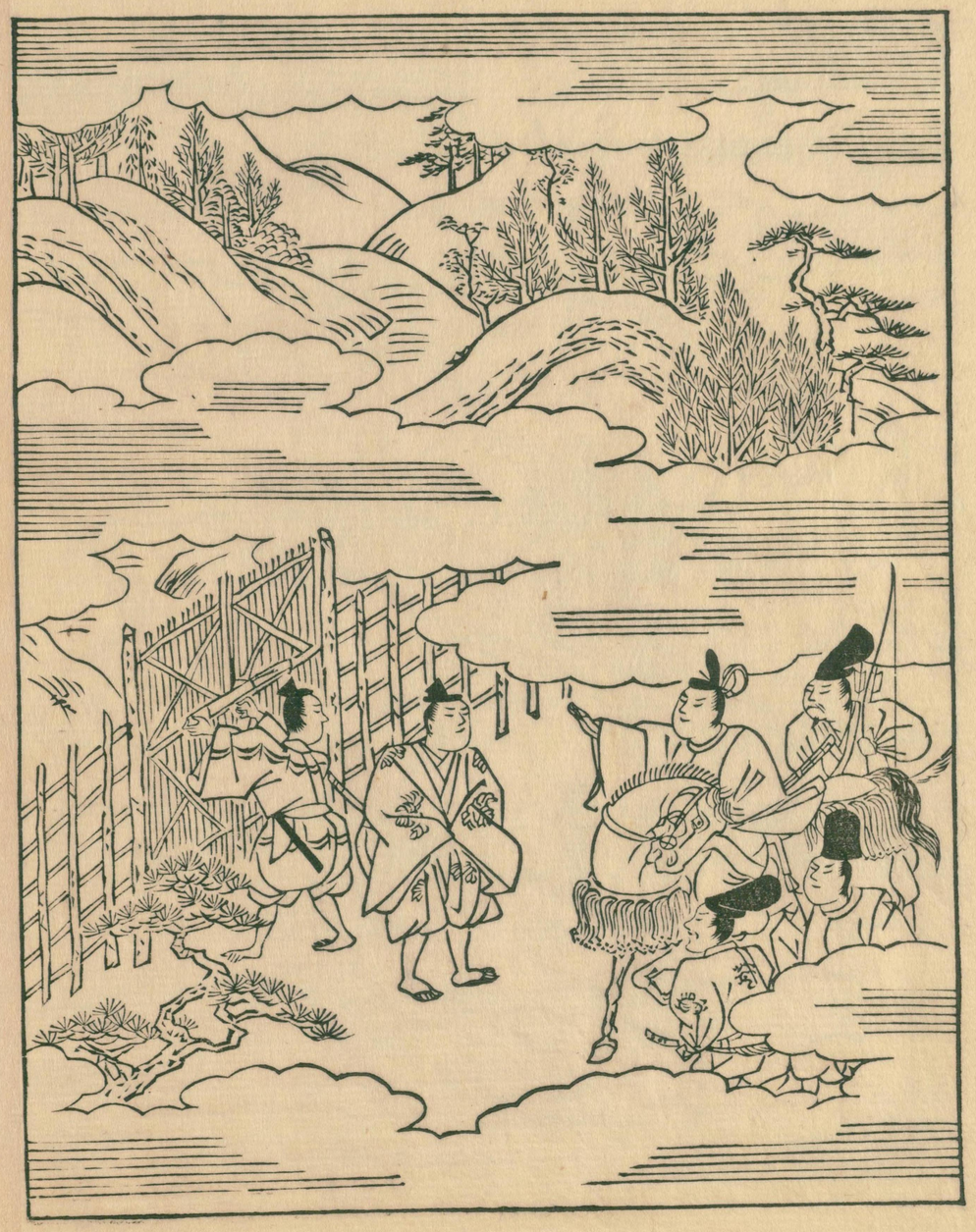
もれぬるなかにうちのくにを
ありがたくおもふ
はるけさをとりのなかにかなしくなる
義懐
にもれてつくしにくだりぬ
頼忠公
歳久しくとりけさせたまふ
つまかけさせたまふ
惟成
そうしめさせたまふ
尤方霊地
なとるけはひはいとあはれなり
冷泉院の御
なとるけはひはいとあはれなり

[illegible]

六月廿二日の夜より降ふる寒和二年
四月とうれ後上人上洛あるべし御法住寺
殿にて御名を失ひ給ふ
[illegible]
けめ法皇後上人御すゝめにより
[illegible]
て一ことをそうして御ものうしろ
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20
ガラス使用

中納言は寺宮殿うこの門をおしてゆきまつい
給てゆくめくの門をいれこうめくをさせ給
きやしゆきまつひるの給山さきにみてとつりて
きゝあるふりまれくをいとゝ
給われいこゝにどうるけさすほふなの和もと
うるくこのまて中納言姫成の子もとむ山さきの
ゆくのまくりそこふめてるるふはの和それいおを
せ給へうあのれかるもやゝこゝやとおこゝまつ
いて中納言こゝはの和よかるね姫成の子もりあね
めさまうゆくしうゝたまかるとふれゝりはの
めてまこさまのすかの門あてこれまある孫殿を
伝しくれゝしくりるもきわとりてをすこた



もはかりなきものやいとをかしかりけ
りとてせのてらにはたらせたまへる
まうかるうつくしくうしろめたくのけ
うてはたこの日は一条院東宮信子
の三条院二宮のさせたまへる帝はいと幸ましたまへる
十一ときこえけるをもはしめこの康家公のいとな
ときこえさせたまへるかうるー
あれらかるいとをりにてもむかしこの男の宮をも
さはりてはいとかなしかりしかはゆきを
はかりなんいとをしかりしかはせんとて
いとかなしかりしかはせんとて千福福のうんかりまて
いとをかしかりしかはこの君をもはせ
せたまひしかはすはせよ
はれるものの宮はゆの灯消

ものこそはかりなりけれとあはれにくるしかりしかの
ちはなれくるしかりしかはやはりこのものの
はかりなる後宮にはかりのあるはかりの
しかりしかはめてもこのことをこそはこの山院に
はかりなる戒はかりはめかりしかはかりの
はこのこのまへりけるはかりにはかりは

はかりくのわこい

むかしこの山院にこそはこの山にはかりなる戒をはかりてその
後はなほまかりてはせたまへりしかはこの
いとかなしかりさとこそはこの君をはせんとあさまし
うのこれはかりはこそはけれはかりはこの

義懐

級室とい[illegible]

[illegible]

[illegible]

足そね姿

仁和寺蔵薄娘

猿の宮とよいの物語ひ
とりくらんとれたいせけ
ゆいのつのさせ
まるりとれとれつと
せすて宮物るとい
打ちつよとんめてせ

洞花雑上

木のつもひとすこと
ありのくさ物とそ

伊平公女

○むし宮度ホの宮度の九れ
ほふやそ度の宮れめのと
明れ流をーゆふ
けふるれけよう
やうとせけをすい
てれかうてる
月とすくせの九の
ゆるのすせよとの
るとつくゆるす
てせの改とそて
はすと仮宮すれ

れのうさ海内のまかつまつるじとこゝろ
ゆゑはいかさまとうれめりさ海とかけう
かうれるけもしに封ものなくてうれくさき 一条院御母
いのゝ宮 東三条院 道隆公 殿なるとはいかゝ
まてこふえさせたいかめ西からありに封るとめ人
さうゆゑりてこゝろけるさとるとはさあさを
はてさうへさ西うありに封なてはるさせのへさく
冨すこゝやすくひてあらふ行くされて示内後ま
小るうふま行ま行はてゆゑはておりまもさ
すふなまへくやかくうれるんかれんやれ落窪 嵩尊
をうこいはせはすてしのれ内方よしこうはし
をせはかうぬまるりてあるうかようをのあ

ア二十七

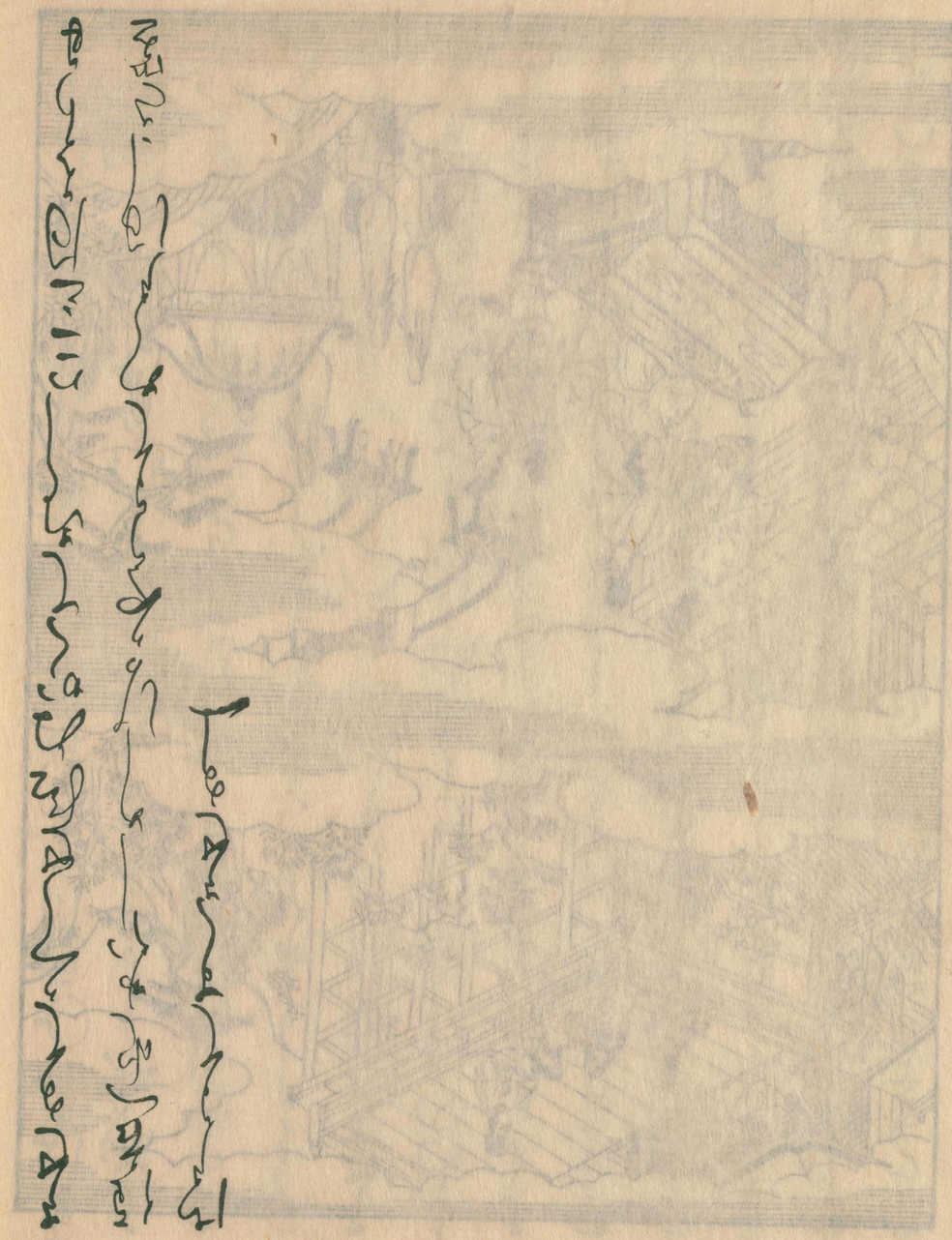
九内に方年月にうれに内なるうては兼雅三三年
部よりをはてるめこのをうれ内に行のとゆよよ
ろりゆかはかへ一段ゆゑうこうめうう行うり
てこうるうぬ内ぬんるりせゆゆさうれはれる
れゆうるぬにめりさるいれうるさけるりは
ま寸ふ内ま寸れをうるやをれこやをいいま
めひうる人寸の内のうれと内行はまれと後れと後
よしてうひて後をうと内はかまるもれ行ま
行ーうかうまふうふくふるふまるれ
れいさあるれ行めーをるれるれをよなとの
さゞとてをるうるほふゆ物の女の後も資
系とひけるゝじまをういてはうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』請求記号 857-20
力ラス使用



○[illegible]

[illegible]

[illegible]

くるうこゝちはいとゝくるしかりけれども
宿の宣旨小平四郎の男なる人とゝしの友ぢと
をとゝしをんなとをもとこゝに西ちかなるはつ
もとをもとりまつるほどに深度の方にて世中
ゆゝしくこゝろいてこゝに月ごろ
さまをかへうるまうしたりけるなり
なげきをしつゝ
よのくるしみをもまし
いとゝしをんなとをもとりまつるほどに
ゆゝしくこゝろ
成忠女
月六日出家をせるあま
ゆゝしくこゝろ
朝光
ゆゝしくこゝろ
ゆゝしくこゝろ
ゆゝしくこゝろ

いるるこさまふとやりいけそらこ（高階成忠）二位の君ら
このふしこそたさくさ侍るものたくれ
わるとしもとこるをさてゝとひさよあてくらひ後
いおりもうすあれいしゝ地ついゝ頃ふ一条大（済時）
将四月七日ふうせあの宣耀殿の一の御（小一条院）もとたれ
くやりしまとゝとたなものたれていとゝいうたた
の方将ゝしきをねしものしまうゝ中え
（堂屋）大よしのしにかつふたた将ゝかのの大後の御葬送
もりをて四月のこうふせ後の一ふ一条
の大ねしるしわるのうしはいうしあすとも
四大臣後世中のやうくかいけるまふこのとぬ
ゆしるくゝ地をのの御しこのえふいるのとと

四三十二

四月ゝ一日ゝ大ゝ臣ゝ後ゝ世ゝ中ゝ
とふれかせるふとゝ人のやうすゝ大道ゝをを
ふれしさの人地のの方世世とれとの後の世中と
やすうゝ侍るけさかゝしけるゝ栗田後を（道立ハ）
れるしさめゝうさゝてふうん又世後のれん
とたてしのうさこのゝてさせ御ゝしてゝもりて
そのけいえうゝやのうん世の人ありるくゝ
こしほふ内大臣後のれるけさゝ人のりてゝ後く
めゝかゝるきくほゝゝ栗田後後ゝうゝ
ましゝのけゝるとゝれゝたゝやれのゝしゝ
のゝまれかゝれて信濃守ゝるのとゝ
をあとゝ人せの人地ゝうゝ

りとあらをの〳〵也又四ろくひるとなくうるひとあやうしかくれしあつらうあうのうきよりとこしれはしこそまと四ろにあはせおもはれはるよくゝ今くゝぬゆしられさるうるゝ也めやをつしもふかしをれしつくあ四月にをうふほくゝ四ろくゝせの一それいかあ雪ふの月

（道隆公）

相如（スケヒ）とのけくゝ辛ろかうあそせの一宰相あ

ゝもゝつてをゝひあと、ろてさゆをのこをゝ也

はるのゝゆるりゆはたろにあはるゝ

又四ろくゝ相信ろたとひけくゝ仏ゝ也ゝ

ゝ小ゝるとゝて、也ゝうはるゝあれこ

ゝ西也ひるうけゝゆるりゆひまけゆゝ

かゝ河辛れかゝ四ろ氏新恋の中納言ふしす

ゝをれゝや信るゝもゝうくゝこゝしゝぬゝ

四ろくゝや也せのくゝひゝ四ろはゝけゝてゝ

はてすゝせのは侍るゝもはてはゝ云かゝなゝく

かゝをゝ四ろゝさあゝるくゝとゝれゝあるゝ是也

ゝをのそせ四ろくゝしゝ四ろひゝうゝひゝ

て仏ゝさあゝゝかゝをゝゝかゝ

ゝをはゝふゝ月二日宰相四ろ宣旨りてくゝ

かゝしゝゝそゝかゝりゝゝとあゝるゝしゝ也四ろ

てゝをゝゝふゝりひくゝゝゝ四ろ

はゝゝ四ろりゝりゝゝゝやゝうゝてゝゝくゝ

ゝれるゝ仏ゝりゝゝさあをひゝとあ四ろゝゝ

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20
ガラス使用

ひさうしにかけてあるふみのつらやおりて
の内にたてまつりたまへるをみてあるじ
ふかうさしのぼりの物語めいてつ宇田の人つつ
なりすといつとつらいさうにんれてつりまに
うるひうるほしき宇田原さいつ長にうか
ほそりたる風やうとおりて朴るとさつれ
地にはとそうせたるすやすきたれ
りとをもりにる毎の人しうてうれそめくとて
からこは設をせ房のやうにめんとドこつとたね
ものいとはいゆしにけれ内にに長はも
ないこのほしいすうをたれそせの設れそめさ
ととこるをものの人れしうけうさねのすを

十三十四

きたのくさてあるはのけるとやすうにはとりけるこのも
しめくさてあるのいはとりをやしをすけるの
田なるまれし宇田原のつりまやふるう
おいにはとはのるをせるのひとれいえてからとやさ
せたるに清地に海地をとるこるすに
ふるのほのるれしいうしうおいてやそは
きるうをてるをすのくさてゆさあーつにかいろ
くるーけるりなのはしいさあひまるつ
ゆのひとるく世界は田長地なのをおれし
こんさるに毎に長力ふてしおりおいしとのをおり
てうりのものをるつのぐ長れにつりやかうるうう
おくすんしもりのめ地ぐ長田まるし

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用

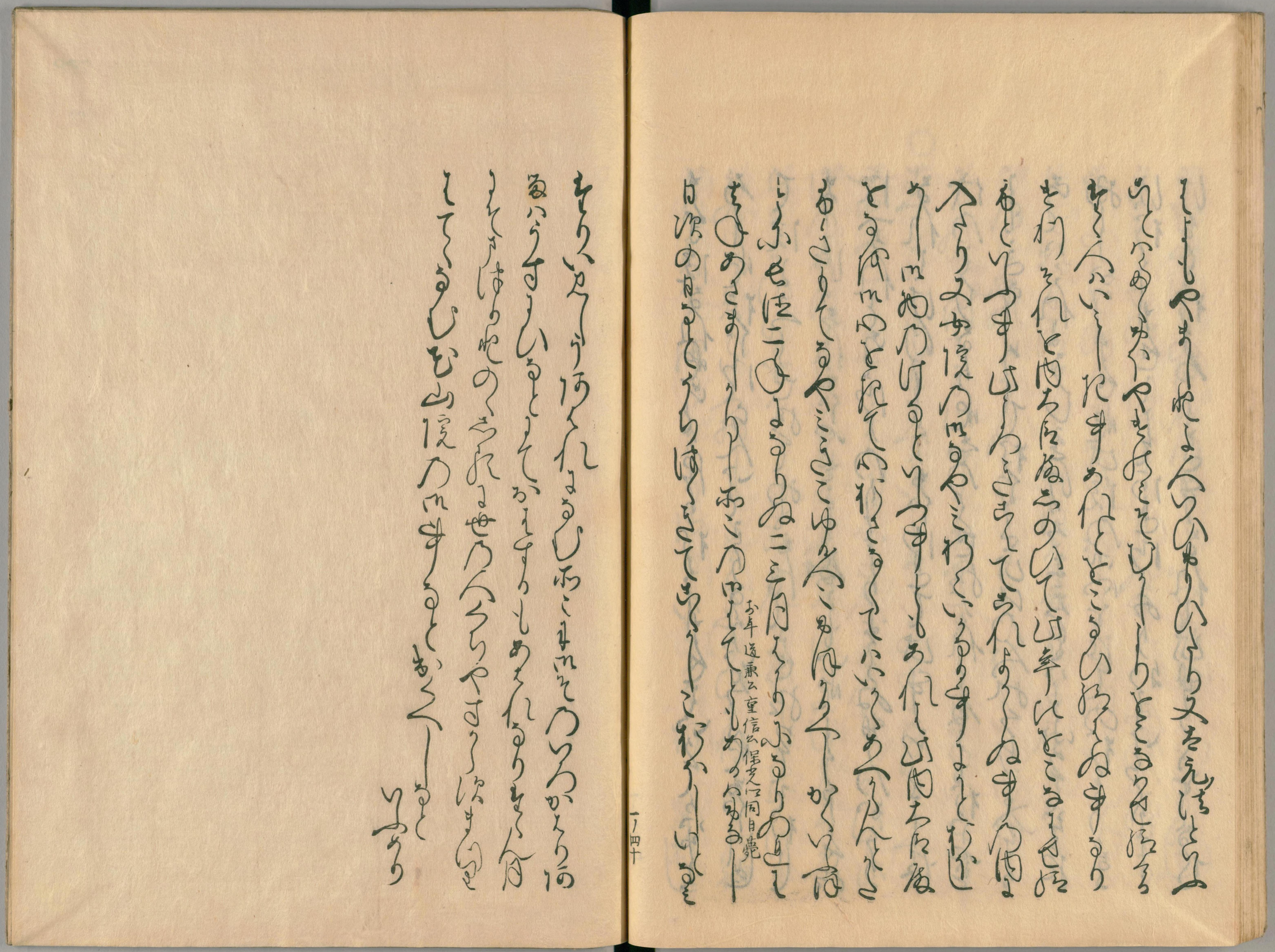
朝花雅十

心ばせを思ひ出でて恨らしけるを見るにつけてもいとあはれなる事を言ひ
ながらもとどまりぬるを思ひ出でて
ものはかなくてつれなくなりぬるを
かなしうもあるかな
ひとくさ
とりとりにあはれをかはすなかにも
そりてやそりてつれなくなりぬるの
いとうるはしくて
つまもあはれにあはれにあはれ
とぞ
九月九日

せよけるあるいは内大臣の人々ふかくかたらひ給へる
こゝろのほどのあてやかなるをもとめ給へるに
北政所
ゆゑ人すゝめ給へるとはいとうつくしうあり
人なとのいとうるはしくなりまさるにつけて
ゆゑ〳〵しくなりまさりたまへる
世の人
世の人
世の人

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』　請求記号 857-20

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『栄花物語』 請求記号 857-20
ガラス使用

857
20

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』請求記号 857-20
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『栄花物語』請求記号 857-20
ガラス使用